

タマリハ 中塚先生に聞く!

言語聴覚士(小児ST)ってナンダロウ??

タマリハ新聞

第2号
発行所
多摩リハビリ
テーション学院

多摩リハビリテーション学院では、子どもを対象に「ことばの教室」を開室しております。
お気軽にご相談ください!



言語聴覚士になるきっかけとは!?

「これからはリハビリの時代!」
という看護師である父の一言

母に厳しく育てられた反動か、友人とケンカするなど荒ぶる一面もありました。(注:今の中塚先生からは想像しにくいです(笑))
一人っ子で、一人で遊ぶことが好きでした。大勢で過ごすのが苦手であれこれ考え事をするのが好きな子供でした。中高生の頃も変わらず、物事を考えるのが大好きでした。特に疑問に感じることや、物事の理由や原因について興味がありました。さらに自閉症、発達障害、高次脳機能障害について興味を持ったのは、この頃からです。「なぜ見えていないのに(物体などを)無視してしまうような現象が起こるのだろうか?」など、そのことを考えることが楽しかったのです。看護師の父の影響から、看護師になるつもりでした。しかし「これからリハビリの時代だ!」という父から受け取った資料がSTのものでした。当時STとはどんな職業で、どんな仕事をするのかなど何も分かっていませんでした。その資料にはSTが扱う症状などが書かれていて、途端に興味を持ちました。その結果、高校3年生の年末に一気に進路を変更しました。高校の先生からは、すごいと叱られました(笑)。STの勉強をしていく中で、成人よりも小児に興味を持ちました。日本では言語聴覚士の2割程度しか小児STがいません。

料理が大好きです。主に和食ですが、いなり寿司、スジの煮込み、カレー、なま酢など何でも作ります。ボクシングをやっています。試合はやりませんが、結構ハードです。でも走るのが嫌いなので、走りません(笑)。後はボートと考え事をしたり、海外ドラマを見ていたりすることが多いです。医療系ドラマや心理プロファイル系、推理ものが好きです。特にエレメンタリーは大好きです。



「自分には面白いエピソードなんて何もありませんよ」としきりに言われていた中塚先生は、とても穏やかで優しい印象の方です。しかし意外な部分を一面のみならず、たくさん発見した気分です。特にお料理については、とても話題豊富でした。いなり寿司の完成具合とおぼあ様のなますのお話は、もっとお聞きしたいです。また心理、精神に関する話題は、やはり専門性が高く、ちよっと

ことばの教室って、何をやるの?!

「障害」は、人の中に存在するわけではなく、他者との関係性の中で「困っている状態」を指します。「コミュニケーション」をする中で「ことば」とは、あくまでも1つの手段(ツール)であり、段階としては最終段階です。例えばゼスチャーや絵札を使うことで、相互のやり取りが成立するならば、出来ることから進んでいけばいいのです。「ことばの教室」には必ず保護者の方に同席して頂いています。どんな「困ったこと」をどのように改善するかを考えます。また保護者の方に、日常でやって欲しいことを伝えても、ほぼやってもらえません。でも教室で「こうすれば上手くなりますよ」と直接見て頂くことで、普段の生活に取り入れてくれるようになります。また、最終的には「ことば」を使うようにしたいのですが、まずは「求められていることに応じていく力」を育てることが最も重要だと考えます。

「子どもって面白い!」編集後記

難しいですが、非常に興味深かったです。「子どもって本当に面白い方ですよ。動きとか表情とか話します。そう言うとなんか誤解をされちゃうかもしれないが、子ども達と話す先生の笑顔は、子ども達に可愛くて大好き!という風に見える原因や解決方法を探し続けているのでしょね。」



多摩リハビリテーション学院

作業療法学科・理学療法学科(高卒3年課程) 言語聴覚学科(大卒2年課程)

〒198-0004 東京都青梅市根ヶ布 1-642-1 TEL. (0428)-21-2001 FAX. (0428)-21-2410 JR東青梅駅から徒歩10分

